

和文抄録

幼児の体力測定に関する保育者・保護者の認識 ：公立保育園・幼稚園を対象とした事例研究

順天堂大学
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4118008
氏名：小貫凌介

【目的】

本研究では、保育者における幼児の体力測定に対する必要性の認識とそれに関連する要因を明らかにすること、体力測定実施が保育者・保護者の意識・行動の変容に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

【方法】

対象は、静岡県三島市の全17園の公立幼稚園・保育園の保育者170名、子どもが体力測定を経験したことのある保護者135名だった。

調査は質問紙を用いた。保育者項目として、体力測定経験、体力測定の阻害要因、保護者項目として、子どもが運動することに対する意識・行動の変容であった。

調査結果の分析は、割合を算出し、単純集計を行った。保育園・幼稚園の比較、体力測定経験の有無の比較を行った。

【結果】

保育者では体力測定の必要性について、肯定的な回答が半数を占め、体力測定経験者の有無別に比較を行った結果、幼稚園教諭では体力測定経験者が未経験者と比べ肯定的な回答が有意に高い割合を示した。

保護者は子どもの体力を把握することの必要性について、肯定的な回答が9割を超えた。幼児の体力測定結果を保護者に返却後、61%の保護者において、その子どもがからだを動かすことに対して意識が変わり、48%の保護者は実際の行動の変化に結び付いた。

【結論】

保育者が幼児の体力測定を経験することは幼児の体力測定に関する必要性の認識を高める可能性がある。保護者がその子どもの体力を把握することは、その子どもがからだを動かすことへの意識と行動を変容させることにつながる可能性がある。